

「あいされている、あなた」

むかーし、昔、と言っても、今から 20 年くらい前のお話です。その頃、先生が通っていた教会には、とっても自由な人がいました。先生より、5 歳くらい年上の自由な人でした。自由って、どういうことなのかって言いますと、んー、とっても毎日を楽しんでいる人でした。ある日曜日、その自由な人は、ヨレヨレの服を着て、オシャレとは言えないくらいに穴の開いたズボンをはいて、教会の礼拝にやってきました。ちなみに、その自由な人は、靴の代わりに、どこかのお店のトイレのスリッパを履いて来ていました。たぶん、そのお店から、直接、来たのだと思います。フラフラと教会に入ってきて、フラフラと礼拝堂の椅子の間をすり抜けて、フラフラと、その人は、ここに来ました。そして、「はい、じゃあ、これから教会学校の礼拝を始めます。お祈りのご準備をしてください」と言いました。先生は、その自由な人を見て、「んー、それはさすがにダメでしょ」と思いました。世の中には、本当に色々な人がいます。

今、その自由な人は、先生と同じで、教会の牧師をしています。とっても素敵な牧師先生です。先生も大好きな牧師先生です。世の中には、不思議なことが起こります。日曜の朝、夜を明かしてお店からフラフラと教会にやっけてきて、教会学校の司会をした人も、たぶん、神様に愛されていていたんだなあ、と思います。だから、牧師先生になったんだろなあ、と。大丈夫です、今、その牧師先生は、立派に教会と、あと病院で働いています。病院にいる牧師先生、チャプレンというお仕事をしています。

この自由な人の話、今は牧師先生でチャプレンのお仕事をしている人の話を聞いて、「なんか嫌だなあ」と思った人もいるかも知れません。でも、そんな「なんか嫌だなあ」と思ってしまう程に、

ダメダメな人のことも、神様は愛してくれています。実は、先生もダメダメな時がありました。まあ、詳しいことは秘密ですが、先生も色々あって駐車場に寝そべって朝を迎えたり、まあ、色々あって礼拝で寝てしまって椅子から落ちたり、まあ色々あって幼稚園の礼拝に遅刻したこともあります、前いた幼稚園の話です。あと、大事な試験に落ちて、教会の人を悲しませたり、神様のことが嫌いになって教会に行けなくなったりしたこともあります。でも、そんな先生を、神様は、今でも愛してくれています。ダメダメなところを受け止めて、愛してくれています。神様って、そういう優しい方なんだよね。

昔、ソロモンさんという立派な王様がいました。すごく頭の良い王様で、ソロモンさんの国は、とっても栄えて、豊かになりました。神様は、ソロモンさんをとっても愛していました。だから、ソロモンさんは立派になったんだと思います。神様は、もちろん、立派な人を愛してくれます。みんなが、これから頭が良くなって、賢くなって、立派になって、偉くなったら、きっと神様は愛してくれます。でも、そうじゃなかったとしても。みんなが自信を無くして、落ち込んで、悔しくて、諦めてしまって、「ああ、自分ってダメダメだなあ」って思う時でも、大丈夫、神様はみんなを愛してくれます。神様は、すぐに枯れちゃったり、すぐに散っちゃったりする、こんな小さな花にも、感動するくらいの可愛さと美しさをプレゼントしてくれています。神様って、そういう優しい方なんだよね。立派なソロモンさんの美しい国も、お城も、街も、この小さな花ほどには綺麗じゃなかったと言います。

神さまは、立派じゃなくても、ダメダメでも、みんなのことを愛してくれています。神様はみんなのことが大好きです。さっき歌った讚美歌の3番目の歌詞を読みますね。「よい子になれない、わたしでも、神様は愛してくださるって、イエス様のおことば」。どうか、この言葉を忘れないでいて欲しいと思います。子ども、大人も、みんな神様に愛されて、大事にされています。だから、

今日から始まる1週間も、自信をもって、胸を張って、一緒に楽しんで過ごしていきましょう。きっと良いことがたくさん待っています。では、最後にお祈りをします。お祈りのご準備をしてください。

神さま。今日は、子どもと大人と一緒に礼拝を守っています。たぶん、80年とか90年とか、歳の違う人がこの礼拝堂に集まっています。みんなを一緒にここに招いてくださり、ありがとうございました。神様とイエス様は、私たちが失敗をしても、良い子になれなくても、悪いことをしてしまっても、でも、愛してください。そんな深い優しさを知って、私たちはいつも感謝して過ごすことができますように。そんな深い優しさにお応えして、お返しをすることができますように、どうか導いてください。神様に愛されたすべての人が、平和に喜んで生きることができますように。

このお祈りを、イエス様のお名前を通して、あなたの御前にお捧げ致します。